

袋田 大子町議員 土産物店経営  
藤田稔さん



藤田さん

### 昔から続く水害

昔から台風や大雨が続くとお店は水害にあってきた。お店の裏側に滝川がありどうしようもない。袋田の滝があるから多くの観光客が来る。私がちっちゃい頃は堤防がなく、お店の後ろが竹藪であった。その後石垣ができたのだが、近年の気象状況の変化で水量が多くなり、お店のテーブルや椅子、冷蔵庫などみんなきれいに川に流されたこともあった。さらに石垣の上に堤防が整備されて背丈ぐらいの高さになったため、今は川の水位がそこをぎりぎり超えるぐらいまでになっている状況である。川の水位が上がると、山からの沢水のみこめなくて逆流してくる。

### 大丈夫だろうと思っていた

その当時も、最初は「大丈夫だろう」と思っていた。普通は川の水位の状況を見てみると大体わかるのだが、当時は急に水位が上がり、お店の品物や座敷の畳を上げたりしている暇はなかった。「避難しなければ」と思い、犬を二階に避難させて、お店の電源を切り、家内を近くの子供の家に避難させた。私は、消防団長をしていて、避難レベル三になると出動しなければならぬ立場のため、市街地へ行く途中の久野瀬地区の道路が冠水してしまうことを知っていたので、生瀬地区を通り大子中学校付近に出られる道路を通り、遠回りしながら消防本部へ行って、そのまま詰めていた。今回の水害は過去の水害のレベルをはるかに超えていて、久慈川上流の自治体との情報共有もさらに必要と感じた。

### 大変だった後片付け

私が自宅に戻るとお店にも泥がたくさん溜まっていた、それを掃き出すのは大変だった。固まってしまうともっと大変なので、「水道が出るうちにやってみよう」と思って、電気もつかない夜中から始めたが、結局、夜が明けて昼頃までかかって終わらなかった。町内の民家や商店などでは、私のお店の被害以上のところも多くあった。とにかく後片付けが大変で、多くの畳や電化製品

などが山のように積まれていたので、三日以上かかったところもあっただろう。多くのボランティアの方が全国から来てくれて本当に助かった、

### 防災を考えた役所づくり

役場も被害にあい、当初計画していた新庁舎建設が変更になった。現在、新庁舎は高台に新設されていて、移転後の役場跡地には、今後、防災道の駅の機能を果たすための様々な防災施設の建設が進められる予定である。

『水害』は『水』、『火災』は『火』、どちらも人が生活するときに必要なものだ。水害にあつてから、台風や大雨時などに対する気持ちが以前より敏感になったように思う。役場の近くにあった福祉施設も水害にあった。当時、入所者を避難させるために役場職員などが助けに入ったと聞いている。

人は良いことも悪いことも忘れがちである。災害はいつでもどこどのように発生するか想定は出来ない。経験した教訓をしっかりと生かして、次世代にも引き継いでいかなければならない。